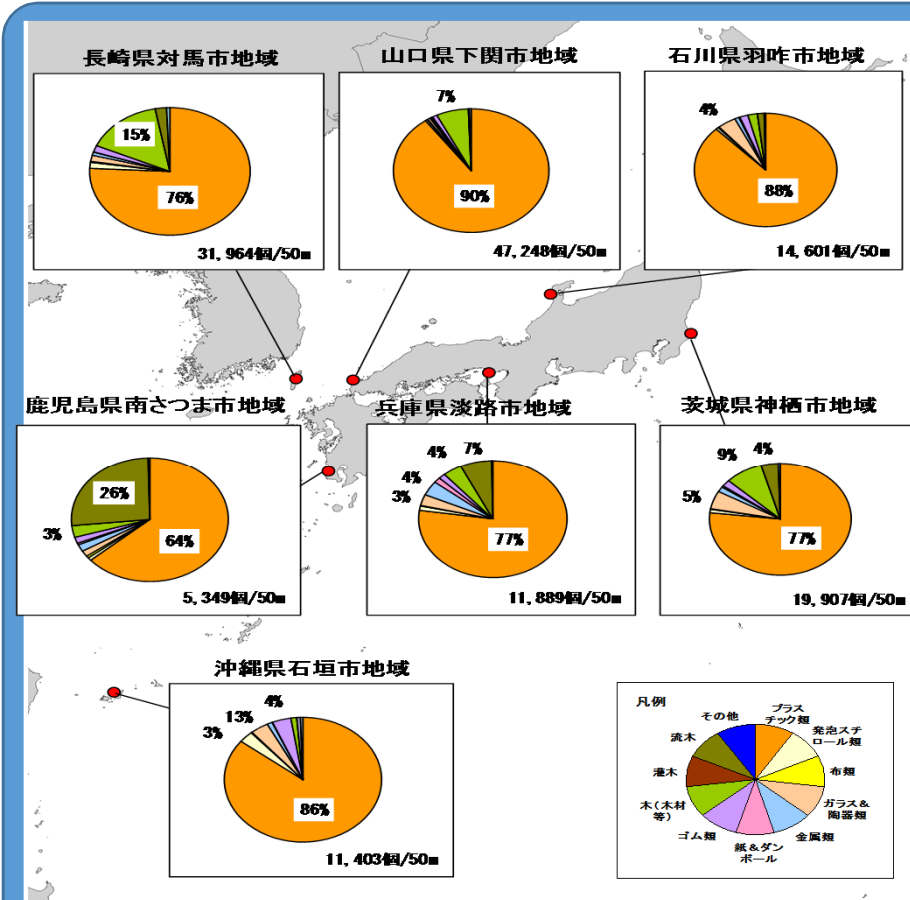


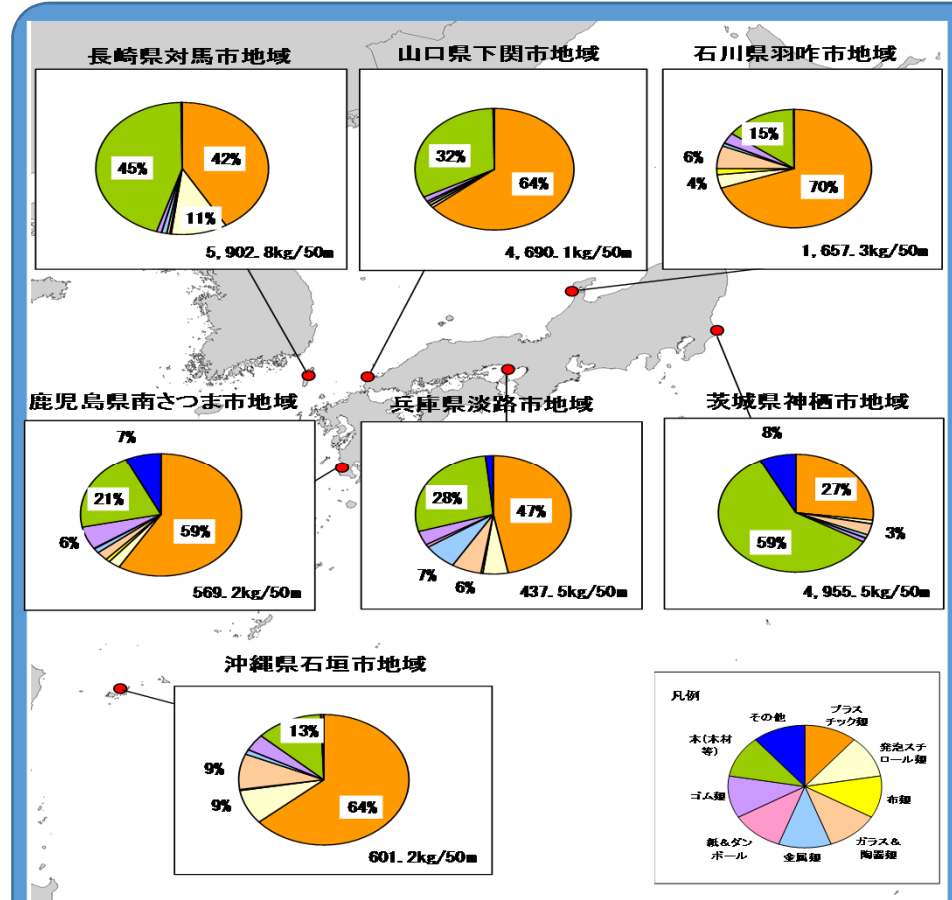
# 漂着ごみ調査結果(個体数、重量)

環境省は平成22～26年度の3年間、漂着ごみについて全国7カ所で実態調査を実施。

調査によれば、5年間の総計について、個体数においては最も種類が多かったのはプラスチック類で6～9割を占めた。また、重量において、人工物を比較したところ、長崎県、茨城県では木材等が多かったものの、その他の調査箇所では、プラスチック類が大半を占めた。



漂着ごみ(人工物+自然物)の個体数  
(5年間の合計: 灌木を除く)



漂着ごみ(人工物)重量  
(5年間の合計)